



青葉の森公園芸術文化ホール イベントレポート

当ホール主催の公演・講座の雰囲気みなさまに発信する「ボランティアライタース」の方によるレポートをお届けします。

EVENT REPORT

平成 29 年
5 月 7 日 [日]

第 7 回 青葉の森 リレーコンサート 軽音楽 DAY

リレーコンサート最終日。ピアノ、反響板がなくなつて、広い舞台で照明が入つて、マイクを使つてのお披露目となりました。

そのトップバッターを務めたのは「唱細工」のみなさん。よく見ると衣装を揃えているようで、女性は黄色いワンピースに黒のカーディガン、男性陣は上下黒で揃え、黄色いネクタイをしていました。少しステージ暗めで、落ち着いた歌い慣れたカバ3曲を披露してくれました。通常は男女のデュオのようですが、このステージではパーカッションを加え、フルートを活かした編成でした。

次に登場したのは、昨年に引き続き「ホッピーズ」。先の唱細工ともつながりを持つているようでした。70年代のみんなが知っている歌を3曲選んでいました。フォークと酒が好きで営んでいるというお店の経営者を含むバンドでしたが、こちらもずいぶんと歌いこんでいることがうかがえる演奏でした。三番手に登場したのは、地

元出身の若手シンガーソングライター「高橋卓也」さん。今回唯一のソロで、すべてオリジナルの曲を披露しました。遠足でもよく来たという、青葉の森公園について語りながらの演奏となりました。

そして、青葉の森公園ホールのロビーコンサートでも活躍のご夫婦「大久保ひみつきち」。こちらも昨年に引き続きのご出演。ペアルックでのご登場、もう一曲という要望にも応える多才ぶり。最後の歌は特に熱唱していました。

最後に登場したのは、ブルースを通じて音楽を楽しもうというサークル「くらばん」。ブルースという、なんか暗い、ちょっと聞きなれない音楽を、楽しもうという気持ちで伝わることを試みているような演出が、とつても心に残りました。こちらも昨年に続いてのご出演で、出演者のお客様、客席を見る余裕、音楽を楽しみ考え方を感しました。

音楽を楽しむ、音を楽しむ。種類分けはしていても「音」を楽しむという文化は継続してほしいと思わざるを得ないリレーコンサートでした。ボランティアライタース 朴京淑



写真:5月7日(日)

7 回目を迎えた「青葉の森リレーコンサート」。5月3日からスタートした同コンサートの最終日となった5月7日の「軽音楽DAY」のステージ上には、5組が登場。

70年代の歌謡界のヒットソング「異邦人」「桃色吐息」他、「スタンドバイミー」「セントルイス・ブルース」などの名曲をベース、ギター、フルート、パーカッションなどの演奏を交えな

がオリジナルリティと大人の魅力あふれる独特の世界観で来場者を魅了しました。全出演者が定期的にライブハウスや地域の公共施設などを拠点に精力的に演奏活動しているにあつて、会場の前列には各出演者のファンが陣取り、演奏中には手拍子で声援。

曲の音出し時に手間取る場面などでは冷や汗気味の奏者に向けて、客席からは「頑張れ」「大丈夫！」などの温かいエールが送られ、どつと笑いが起りました。

また演奏者の他、会場の雰囲気や和ませて楽しませたのは、公募で参加したという司会進行役のお二人。

出演者のプロフィールや活動、曲紹介の他、インタビューを通して演奏中には見ることが知ることが出来ない各出演者の魅力を次々と引き出すなど、アットホームな雰囲気の中で行われた今年の青葉の森リレーコンサート。

早くも来年が楽しみですね。

ボランティアライタース 松永智子

写真/ボランティアカメラマン

松本義裕
田邊 定行
合屋 琢二